

令和 4 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : グループホーム「かっこう」

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0392800017		
法人名	住田町社会福祉協議会		
事業所名	グループホーム「かっこう」		
所在地	〒029-2502 住田町下有字十文字89-2		
自己評価作成日	令和4年10月22日	評価結果市町村受理日	令和5年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住み慣れた地域で、可能な限り利用者やご家族の思いを尊重し、個性に向き合いながら「ここに居たい」と思っていただけに対応しています。個性を大切に本人の力を引き出しながら、やっているという実感を持っていただけるように思っています。体力や理解力、思いなどそれぞれなので、寄り添えるように思っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action\\_kouhyou](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者が過ごす長く大きなホールはコロナ感染対策を考慮してレイアウトを変更し、コタツとテーブルを2箇所から1箇所に変更し、日中、利用者はそのテーブルで語り合ったり趣味の物作り等を楽しめるようにしながら、地域みんなの「家」的な雰囲気作りに努めている。運営主体を同じくするデイサービスとは廊下で繋がっており、職員同士の協力体制だけではなく利用者同士の繋がりが見られる。開所から12年を経過し、歴代の管理者の努力もあり、地域にすっかり溶け込み、地域住民からの声掛けや行事へのお誘いを受けるほか、避難訓練の協力も得ている。常に利用者の立場に立ったケアを実践し、家族の信頼も厚く、運営方針である「ゆっくり・穏やかに・和気あいあい」を職員だけではなく、利用者にも伝えて日常を送っている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号		
訪問調査日	令和5年2月2日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : グループホーム「かっこう」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者にとって第2の家とさせていただき、家庭のように安心できる場所なるようにと職員会議等で話しあっています。	開設時に作成した理念を検討した結果、この理念を引き続き掲げることとした。事務室と玄関先に掲示し、改めて研修等は行わないが職員に声掛けし、意識づけを行っている。また利用者にも、職員はこの理念に基づいて介護していることを伝えながら、地域みんなの「家」としての雰囲気作りにも努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍のため、交流の機会は減っていますが、地区で行なっているクップ大会の見学に行き、来年は参加してみたいとお誘いを受けています。また今年は、かっこうの庭で一日直売を開催し地域の方々と交流しました。	コロナ禍のため以前のような活発な交流はできないものの、今年度は一日直売として軽トラ市を開催したところ、地域の方々が50名ほど集まり交流することができた。また徒歩10分ほどの所にある公民館で、地元住民が集うカフェへ参加を考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	指先を使った同じ作業で、落ち着いてる方もおられるので、その作業で作った物を作品にして地域の方に紹介している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者間でトラブルになりそうな認知症状への対応、取組み等を報告しアドバイス等頂き、実践している。	2ヵ月毎に開催しているが、今年はコロナ禍により1回は書面会議とした。地域全域からの民生委員6名、老人クラブ、消防団、利用者家族全員が委員となっている。利用者家族は遠方や勤務の関係もあり、都合がつく家族が出席している。夜間防災訓練を推進会議当日に、委員の協力を得て実施するなどしている。	会議は入居状況や行事活動等の報告、連絡事項が多く、委員からの意見・要望が少ないので、事前にテーマを設けてお知らせするなどして、活発な意見交換が出来る工夫を凝らされることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員でもあり、情報提供や助言を頂くことができています。	要介護認定申請等で役場に行く機会もあるが、事業所の運営主体が町社会福祉協議会であるため、運営主体経由で行政情報を得ることが多い。町の担当者が運営推進会議に出席しており、日頃の情報交換も密に行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関については、中からスイッチを押さなければ自動ドアは開かない状態になっているが、スイッチを切り開放にしたりと閉じ込められ感なく過ごしていると思う。外に出たい方には、可能な限り一緒に出かけるようにしている。	運営推進会議に併せて身体拘束適正化委員会を開催し、現状の報告を行いながら助言等を得ている。また毎月の職員会議の中で、職員を中心とする研修を行っている。行動制限に繋がる言葉掛けがみられた場合には、代わって他の職員に対応させ、申し送り等でどのような言葉掛けが適切かを話し合っている。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム「かっこう」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	利用者の行動や言動に対する職員の言葉遣いや態度など、改善しなければならないことがあると同時に職員の過度のストレスを溜め込まないよう、そのような状況が見られるときには別の職員が対応するなど職場内で話しあっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社協事業のひとつでもあり、成年後見制度については考えているご家族もおられるが、今のところ相談は受けていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にご家族の不安や疑問点を伺っています。利用料の変更等はその都度、連絡を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話での確認で、ご家族の意見要望等を伺っている。	コロナ禍以前は家族会として活動しており、要望等も出されていたが、現在は活動が休止となり、面会時などを活用して意見・要望を伺っている。運営に関するものはなく、ケアに関する要望等が殆どである。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の中で業務や運営に関して話しあったこと等必要なことは上司に報告、相談している。	日常の申し送りや職員会議で職員の意見等を把握している。夜間に転倒する利用者について、ベッドから離れることが分かれば見守り等が出来るとの意見が職員からあり、センサー付きのマットを購入している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回、会長が各事業者の提案等のヒアリングを行っている。衛生委員会の「適切で快適な労働環境のチェック等アンケートを実施し人事考課も行き、各自が向上心をもって働けるように職場環境、条件の整備につなげようとしてくれる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社協による研修の他に、外部研修、資格をとる為の研修等、研修に参加させていただいている。		

事業所名 : グループホーム「かっこう」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等への参加や同業者と交流する機会は減っているが、事業所内の研修等でサービスの質の向上をめざしている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご自宅に訪問し本人からお話を伺ったり、ご家族と電話での連絡や相談等伺っている。何でここに居るのか誰に連れてこられたのか忘れて混乱する方や、被害妄想等で苦しんでおられる方など、その都度お話を伺いながら安心していただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所される時に、ご家族に心配ごとや要望等話しやすい雰囲気をつくりながら伺っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今年度は、サービスを導入する段階での他のサービス利用等の支援は行っていないが、入所後に地元の方との交流を兼ね隣接のデイの健康ちよきんリハに参加した方がおられる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の状態をみながら、毎日のお掃除や食事の準備等得意な事を一緒に取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ感染状況をみながら可能なときは通院介助を行っていただいたり、玄関でのアクリル板ごしの面会や電話で話をして頂くなど、ご家族との絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため以前のようにホームの中では会えないが、電話や病院受診時など短時間でも会えるように努めている。	併設のデイサービスとは廊下で繋がっているため、デイサービスを利用している知人と会ったり、事業所前の広場で顔を合わせる機会もある。病院受診時に友人・知人とも顔を合わせるなど馴染みの関係が継続している。事業所として、電話やラインを活用した家族との関係継続の支援に力を入れている。	

事業所名 : グループホーム「かっこう」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その都度、利用者同士の様子を見ながら穏やかに過ごせるように場所やグループを替えている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した方の様子を確認している。退所後にご自分で育てたイチゴ苗等を持ってたずねてくださった方もおられる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員会議や日々の申し送りのときに本人の訴えやつぶやき、思い等話し合い、希望に添えるように努めている。	利用者全員が言葉での意思表示ができ、カンファレンスや、連絡ノートで職員間で情報共有している。言葉のみでは利用者は自分の思いを十分に伝えきれてはいないのでないかと考え、日常的な生活の場での利用者の様子を観察するなどして、思いや意向の確認に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	グループホーム入所前の暮らしについては、各部署と連携し少しでも多くの情報が得られるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間での話し合いやカンファレンス、連絡ノート等で情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議やカンファレンスでの話し合い等で状況に応じて介護計画を変更している。またご家族には面会時や電話等で説明や確認をしている。	居室担当者が中心になり、日々の様子をモニタリングしケース担当記録に記入している。それをもとに職員会議で検討し3か月に1回見直しを行っている。定期的に訪問する看護師等からのアドバイスもケアプランに盛り込んでいる。利用者個々の生活の違いも踏まえ、それぞれに応じた支援を行うプランとしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランで補えきれない部分のケアは、ケアカンファレンスで考えているのではないと思う。日々の様子等個別記録し連絡ノート等も利用して職員間での情報を共有している。		

事業所名 : グループホーム「かっこう」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な受診の場合は、ご家族と相談しながらご家族対応が難しい時には受診対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区公民館でのクッパ大会を見学に行ったり、近所の理容院が出勤してくれ散髪していただいたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診日までに本人の心身の状態を記録したものを準備し、ご家族と共有し医師に上申できるようにしている。	入居者のほとんどは入居前のかかりつけ医を受診している。通院介助は基本、家族が行っているが家族が都合つかない時には職員が通院介助を行っている。家族が通院対応時には必要記録を託し職員が付き添った際には、その都度電話やメール、通院報告書で家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が毎週水曜日に訪問している。事前に情報を伝えて、状態観察や処置をしてもらっている。受診を勧められた時には、ご家族に連絡し受診できるように対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した時には、連携シート等必要な情報を提供し、退院時には電話でのやり取りで対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した時の意向調査を行っている。施設に医療職がない為、その時の状態等によってご家族と相談していく予定である。	入居時には重度化や終末期の対応についての説明を利用者及び家族に行っている。昨年に行った看取りでは、各事業所の枠を超え法人全体でバックアップして対応した。今後も利用者個々の思い等を確認しながら対応していきたいとしている。	全職員の体制で看取りを経験したことは、不安はあったが自信に繋がったと思われます。これを機会に、重度化と看取りに関する勉強会に取り組まれることを期待します。

事業所名 : グループホーム「かっこう」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の病気から考えられる急変時の対応等、医師や訪問看護師に相談しながら職員会議等で確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設のデイサービスとの避難訓練の他に夜間を想定した火災訓練を地域を含めて行う予定にしている。	地震と火災を想定した避難訓練に加え、薄暮時に夜間を想定した訓練も実施している。職員の連絡手段としてラインを活用しているが、運営推進会議で近隣住民もラインに加わってはとの意見があり、登録を済ませている。ホームの前庭に消防団屯所があり、職員は心強く感じている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入る時には声掛けを行い、トイレ介助や入浴の際にはプライバシーに配慮し、一人ひとりの気持ちを尊重した対応を心掛けている。	利用者一人一人の自尊心を傷つけないよう、得意なことができ、達成感を持てるよう支援している。一人一人を尊重したタイムリーな誉めかたと多彩な特技の掘り起し、適度なジョークは、笑顔の原点としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で話している事などを聞きとめたり、帰りたいと思う等の訴えを伺い寄り添って話を伺っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	動くのが大変になり億劫がる方が増えてきているが、少しでも動いていただけるように興味のある物を準備し声掛けしている。食事は皆で食べているが、体調や気分に合わせて自室で食すこともあり、ご本人が選択できるように声掛けしている。レク活動も本人のペースに合わせて伺いながら行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分でできる方は、自分で行なっているが、コロナ禍で出かける頻度が減り、身だしなみを気にせず過ごすことが増えている。季節や天候に合わせた衣類調整を職員と一緒にしている方もいる。		

事業所名 : グループホーム「かっこう」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の会話や食事アンケートで食べたいもや嫌いな物を伺っている。準備や片付けは、出来る方と一緒にこなしている。地域の方々から頂いた野菜や、自分たちで収穫した野菜で何を作るか等相談している。	火曜日、金曜日以外の昼食だけは、併設のデイサービスで調理し、事業所では家族や地元の人からの差し入れの食材等も活用して職員が調理している。行事食の時には豪華に盛り付け、見た目も楽しめるよう工夫している。利用者の好みや嗜好は、食事アンケートや会話を通じて伺っている。利用者の持てる力に応じ、役割分担や席の配置を工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態は、食べやすいように工夫し、主食のご飯は計量している。夕食の味噌汁は塩分を考え提供していない。紅茶やコーヒーなど個々の嗜好にあわせ楽しみながら水分摂取していただけるよう心がけ、摂取量も記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い、必要に応じて援助している。年1回の歯科検診を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご自分でトイレへ行っている方もいるが、歩行不安定な利用者の方が多く誘導や見守り介助をおこなっている。	日中は、利用者全員トイレを使用している。自分でトイレへ行ける方は4名、見守りを必要としている5名は排泄記録を参考に声掛けをしている。夜間移動が困難な方は、自室でポータブルを使用している。職員は、難聴の程度を把握して目を見て分かりやすいように誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表に排便状況を記録し、便秘になりやすい方には、下剤の調節を行い、無理のない排便を促がしている。水分やヨーグルト、ヤクルトも摂取していただき、軽体操やゲームなどで体を動かしていただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の活動や、行事によって適宜変更はあるが、曜日に拘る利用者もおられ、個々にそった支援をしている	入浴は基本的には午前中としているが、その日の活動や行事によって適宜変更はある。体調や気分を聴き、入浴したくない方は無理強いせず別の日に対応している。一人一人の希望に沿った湯加減や入浴時間で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活サイクルがみだれないように個人の体調や状況を見ながら午前から安静時間を設けたり、午睡時間を調整して個々の体調に添った支援をしている。		



令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム「かっこう」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時に頂くお薬情報を回覧し変更があった時には連絡ノートに明記し、情報共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分でできることは、快くお手伝いしていただいている。花を生けたり、食事の盛り付けや、作品作り等得意な事をしていただき、役に立っているという実感を持ってもらえるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍でもあり、外出の機会は減っているが、天気の良い時には庭にでたり、ベランダから外を眺めたり、ドライブに出ることもある。最近では地区のクップ大会を見学に出掛けて地域の人々と交流している。	コロナ禍において外出の機会は減ってきてはいるが、中には好天時には庭に出て、草取りや手入れをしている。最近では地区のクップ大会を見に行き地区の方々と交流を楽しまれた方もいる。コロナ禍の収束と春の温かさが望まれるところである。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方もおられるが、しまい忘れなどで、「誰かもっていった」等もあり、事務所金庫に預かっていることで安心して頂いている方もおられる。使いたい時には何時でも使えることを話している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の状況を見ながら希望があれば対応している。荷物が届いた時などは、本人がお礼の気持ちを伝えられるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースのホールには、コタツが2箇所あり季節を感じられるような作品作りや展示を行っている。家庭的な雰囲気でも過ごしていただけるように心掛けている。	ホールは広く、天井からは明り取りの窓を通して、日の光がホール全体に入っている。壁にはこれまで事業所で作成した利用者と職員の合作による刺し子・貼り絵・絵画等が沢山掲示されている。感染症対策のためテーブルに設置されたアクリル板には、造花だが淡い色の花が飾られ、無機質にならないよう工夫されている。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム「かっこう」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	コロナ対策で共用部分のコタツを離して対応している。自分の場所と固定している方や自由に行ったりきたりし、気の合った利用者とお過ごせるように対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に持ち物の制限はなく、希望されれば自宅にある思い入れのある物の持ち込みが自由である事を家族にも伝えている。身体状況や認知状況に配慮して本人やご家族と相談している。	居室にはパネルヒーター、クローゼット、洗面台と椅子が用意され、どの部屋も花や写真、カレンダー、賞状が飾られている。家具類の持ち込みが余分になくスッキリと整理されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレマークや居室の名前は大きく、わかりやすいようにしている。ホールに常に職員がいるようにしているので、分からなくなったときには直ぐに聞ける状況にある。		